

第7回がん研若手コロキウム / 学際科学若手コロキウム開催報告

令和7年7月23日、若手研究者の育成を目的として、「第7回がん研若手コロキウム／学際科学若手コロキウム」を開催いたしました。本コロキウムは、学生およびポスドクを主役とする研究発表会であり、口頭発表や質疑応答を通じて、若手研究者のプレゼンテーション能力とディスカッション力の向上を図ることを目的としています。

今回より、学際領域展開ハブ形成プログラム「健康寿命の延伸に向けた集合知プラットフォームの形成」の一環として、当プログラムに参画する東北大学・加齢医学研究所、大阪大学・微生物病研究所、慶應義塾大学・先端生命科学研究所から若手研究者を発表者として招き、機関を越えた若手研究者間の交流を促進いたしました。

当研究所および連携研究所の若手研究者からは、非常に質の高い研究成果が発表され、活発かつ白熱した議論が交わされました。
(発表者9名、参加者56名)

本会では、Best Presenter 賞および Best Discusser 賞を参加者による投票で選出し、表彰しています。今回、Best Presenter 賞には東北大学・加齢医学研究所の Yue Xu (徐悦) さんが選ばれました。また、Best Discusser 賞は Yue Xu (徐悦) さん、Renata Akhmetzianova さん、Shenghui Zhi (智升暉) さんが受賞しました。Yue Xu (徐悦) さんはダブル受賞です。

【Best Presenter 賞】

Name: Yue Xu (徐悦)

Affiliation: Modomics Medicine, IDAC, Tohoku University (東北大学・加齢研)

Title: Molecular and pathogenic roles of ALKBH4-mediated tRNA modification in lung cancer



【Best Discusser 賞】

Name: Yue Xu (徐悦)

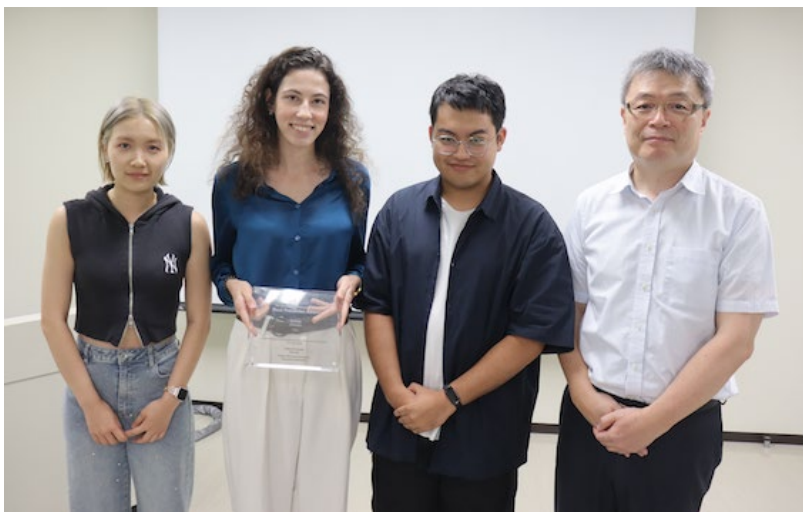
Affiliation: Modomics Medicine, IDAC, Tohoku University

Name: Renata Akhmetzianova

Affiliation: Division of Oncology and Molecular Biology, CRI, Kanazawa University

Name: Shenghui Zhi (智升晖)

Affiliation: Division of Immunology and Molecular Biology, CRI, Kanazawa University



プログラム

Session 1 (Chair: Yamato Tanabe)

13:10 - 13:30 Xi Chen (Div. Molecular Genetics, CRI, Kanazawa University)

13:30 - 13:50 Hirokazu Kusunoki (Div. Cancer Cell Biology, CRI, Kanazawa University)

13:50 - 14:10 Yue Xu (Modomics Medicine, IDAC, Tohoku University)

Session 2 (Chair: Yuko Tadokoro)

14:30 - 14:50 Shenghui Zhi (Div. Immunology and Molecular Biology, CRI, Kanazawa University)

14:50 - 15:10 Hiroaki Kitakaze (Dept. Experimental Genome Research, RIMD, Osaka University)

15:10 - 15:30 Putra I Wayan Ardyan Sudharta (Div. Genetics, CRI, Kanazawa University)

Session 3 (Chair: Kohsuke Tsuchiya)

15:50 - 16:10 Ziheng Yao (Div. Oncology and Molecular Biology, CRI, Kanazawa University)

16:10 - 16:30 Ryosuke Hayasaka (Grad. Sch. Media and Governance/ IAB, Keio University)

16:30 - 16:50 Zixue Zhang (Div. Cancer and Senescence, CRI, Kanazawa University)

16:55 - 17:05 Closing remarks

19:00 - Interactive Networking Session

発表者のみなさん



質疑応答の様子



コロキウムを終えて

今年で7回目の開催となる「がん研若手コロキウム」では、本年度より新たに「学際科学若手コロキウム」という副題を掲げました。これは、文部科学省の学際領域展開ハブ形成プログラム「健康寿命の延伸に向けた集合知プラットフォームの形成」の一環として実施されたものです。本企画では、東北大学加齢医学研究所、大阪大学微生物病研究所、慶應義塾大学先端生命科学研究所といった連携機関より若手研究者をお招きし、発表と交流の機会を設けました。

所内の研究者だけでなく、他大学の多様なバックグラウンドをもつ参加者による発表が加わったことで、より幅広く刺激的な研究発表会が展開されました。討論も非常に活発であり、他大学からの参加者の方々も積極的に発言され、**Best Discusser** 賞にも選出されるなど、学際的な交流の意義が強く感じられる場となりました。今後の共同研究の促進や若手間のネットワーク形成において、非常に意義のある取り組みであると確信しております。今後も引き続き開催していくことが望まれます。

また今回は、「**Interactive Networking Session**」として、久しぶりに学外でお酒を交えながらの意見交換および懇談の機会を設けました。学外参加者を含む多くの皆さまにご参加いただき、対面での活発な交流が実現しました。今後は学生・教職員を問わず、より多くの方々にこのような機会にご参加いただければ幸いです。

Best Presenter 賞および **Best Discusser** 賞の選考は、学生・ポスドクの皆さんと、各分野の教員代表の皆さまによって行われました。今回、**Best Presenter** 賞には東北大学大学院生の徐悦さんが選ばれました。非常に質の高い発表であり、多くの方々が公正に評価された結果であると考えております。ご多忙のなか、審査にご協力いただきました各分野の教員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

今回も多くの方々のご尽力のおかげで、本コロキウムを無事開催することができました。閉会のご挨拶とともに、受賞者への記念品をご提供くださいました鈴木所長に、この場を借りて深く感謝申し上げます。また、会の運営にあたっては、研究協力係の皆さまに多大なご協力を賜りました。特に、会場設営、オンライン投票システムの準備、記録写真の撮影等を担ってくださいました寺田さん、他大学との連絡や旅費手続きなどを担当してくださいました瀬戸さんに、心より御礼申し上げます。さらに、本会で座長をお引き受けくださいました田辺助教、田所助教にも御礼申し上げます。遠方よりお越しいただき、発表・討論の両面で熱心にご参加いただきました徐悦さん、北風さん、早坂さんをはじめ、すべての参加者の皆さまに心より感謝申し上げます。

がん進展制御研究所・准教授
土屋晃介